

## 職員懇談会の感想レポート

(平成17年2月23日・3月3日実施)

参加者 116名      レポート提出者 63名

### 時代認識

- ・ 中央集権社会のシステムが限界に達し、地方分権社会へと施策の転換が確実に進んでいるが、三位一体の改革は分権の真髄を貫き通すことができるのか。これらが、地方自治体の裁量にかかっている
- ・ 子どもがよい環境で成長していくために親子のふれあいの時間を大切にしてほしい。
- ・ 少子化高齢化や国・地方の財政難で、地方自治は大きな転換期を迎えている。
- ・ 国の800兆円の借金は額が大きすぎて身近に感じられない。これは政策の失敗であって、自助互助だけではまかないきれないのではないか。
- ・ これからの時代、国からの補助金がなくなり、財源的にも苦しくなる中、いかに地方独自の方針を考え、財源、意識様々な面から変って行くことが重要。

### 総合計画への意見

- ・ 実現可能で住民が理解しやすい総合計画、住民みんなの総合計画を目指したい。
- ・ 意識改革と一口で言っても大変難しいこと。
- ・ 現在進めている主要施策をどのように第6次総合計画に組み立てるのか
- ・ 組織改革で横のつながりを重視した場合、斬新な機構改革を考えていくのか。今回の理念が総合計画の行動目標の具体的な部分のどう反映していくのか。総合計画プロジェクトは現場の状況を提供する役と考え、進める役が必要では
- ・ 地域が自立していくために、明確な目標を立てることの重要性を感じた。
- ・ 実施計画を予算確保と捉えている職員が多い。基本構想、基本計画、実施計画をリンクさせたものにしていただきたい。
- ・ 合併について明記する予定はあるのか。自主財源として新たな税金を賦課する予定はあるのか。環境対策への具体的な取組みの予定は。
- ・ 所管の行政計画との整合性、住民の声の反映をどのように具体的に表すのか。
- ・ 総合計画の取組みでは、住民が夢を持ち、行政に参画できるものを理念としなければと思う。
- ・ 町の未来を描くのは住民であり、その意見を聞く作業がどんな形で行なわれるのか、住民が満足する「大口町の総合計画」を期待しています。

- ・ 今回の総合計画の行動目標が「自立する町」ということだが、「自立と支援」に基づく協働型のまちづくりこそは地方分権の時代における方向性であると思う。
- ・ 改革方針の中で成果指標を策定し、常に検証しながら進められればよいのではないか。
- ・ 組織における横の連携が取れたら役所はもとより、町が大きく転換できる。そして、総合計画策定と共に、町の理念を構築し、関連条例や要綱を体系化することも横の連携強化に繋がるのではと思う。
- ・ 今日の中に明日を置き、10年先の町を創造するため、町民と情報を共有し検討していけたら、やがて大きな動きとなり、マンパワーで支えあう町が出来ていく。
- ・ 様々な計画を立てて仕事を進めているが、どこまで達成できたかを評価することが出来ない。総合計画を作成したら、中間での評価を行い、結果を公表していく仕組みが必要だ。
- ・ 住民主権の地方自治に大切なことは、個性あるまちづくりだと私は考える。個性あるまちづくりに必要なものは、個性ある住民だ。まちづくりは、「個性ある住民」、「活気ある住民」、「自分の住む町が大好きな住民」を増やし、教育していく必要がある。
- ・ 将来（未来）を考え、描くことは難しいことであるが、町ぐるみで計画を立てていければよいと思う。
- ・ 利益追求する企業が、税を納める以上のメリットが町にあること、「お父さんが働く町は楽しい」とか、同じ情報で語りあえるということが、町の魅力になるのではないか。
- ・ 「行政はサービス業ではない」とバツサリ切った町長の言葉は誠に新鮮で、「行政は大いなるサービス業」という岩国氏の言葉は、公務員にとって大変大切な考えだと思っていたが、それが地方分権が叫ばれる中で、もう時代にそぐわなくなっているということであり、社会情勢の変化の急激さを痛感した。
- ・ 「自然と企業の共存の考え方に共感したが、住民に「自助、互助」を強いることは、長期的には賛成するが、今はまだ早いと思う。
- ・ 10年前より確実に住民の町政への関わりは大きくなっている。職員それぞれに役割があるように、職員が出来ること、住民として出来ることがあり、その役割を明確にしてもいい

## 職員の意識改革と提案

- ・ 地方分権型社会への移行と厳しい財政状況を考えると、活気のある施策を展開するために職員の責務は大きい。
- ・ 町民に自助互助を問いかける前に、職員自らが意識の改革を図らなければならないと、町民との関係で空回りが発生すると強く感じた。大口町民が元気で生き生きとした生活を送るために、今一度全職員が自身に問うべきだ。
- ・ 職員間の情報の共有化と連携のためのグループ制が、名前だけで、縦割りの係が残っている。それも課毎の雰囲気や職員の気質で大きな違いがある。職員の意識改革のための人材育成が不可欠。
- ・ これからの地方自治で大切なことは職員の意識改革であり、住民の意識を変えるにも職員が思いを伝えることだ。
- ・ まちづくりにはまず職員の意識改革が必要。
- ・ 全国レベルの職員研修の場(自治大学校、市町村アカデミー)への参加は、様々な課題に取り組んでいる市町村の職員と話が出来、人材育成になる。
- ・ 職員一人一人が行動目標を持ち、まちの行財政を改革していく努力なしでは、「自立のまち」の実行は不可能と言わざるをえない。努力次第で全ての面に格差が見えてくる。まずは前進。
- ・ 住民自治のまちづくりについて聞くことは、町職員として、何が必要かを再確認し、自分の位置を見直すよい機会だったと思います。町をよくするのは、まず自分の意識改革から。
- ・ 子供達に「郷土を思う優しい心」保護者には「子どもを生み、育ててよかった」という気持ちが育つよう考え仕事に当たりたい。
- ・ どのような社会にしていきたいのか、どのような社会になっていくのか、私たち一人一人がしっかり考えこれからの大口町を自分達の手で作っていかねければ行けないということを強く感じました。
- ・ 生まれ育った大口町がよりよい町になるよう住民・職員として何をすべきかを考えていきたい。
- ・ 大口町が将来住みにくい町にならない為に今成すべきことを考えなければならない。今後も目標意識を持って、一日一日を大切にしていく。
- ・ 何かを始めることは、とても難しく、困難なことも多い。受身の公務員ではなく、常に周りの動きを見て自ら進んで行動し、作りあげていく楽しさを味わいたい。
- ・ 総合計画の方針として、財政、意識、組織改革の必要があるという話で、特に意識改革で、ものの見方、考え方を換え、前向きにすれば、全てがよい方向に向いていくという部分に共感し、考えさせられました。
- ・ 地域の将来(総合計画)に関わることは、子どもの将来に繋がる重大な仕事をしているという意識と自覚を持ち、これからも前向きに取り組んでいきたい。

- ・ 職員・住民は中央集権の考え方に長い間慣れており、考え方を考えるためには、何度も繰り返し理解するよう努力することは必要だ。
- ・ 形が見えにくい仕事だからこそ「何故そうするのか、どうしてするのか、考えのもととは何か」という、理念を持ち、目標を設定し、考え行動する、この積み上げで仕事に取り組もうと思います。
- ・ 自分の中にある気持ち、考え方、あり方を大切にし、目標と夢を持ち、人として向上していきたい。
- ・ 職員が一日に何度もたばこを吸うために席を外し、職員同士で談笑しているのが気になります。国も大口町も健康づくりを推進しているのに、町の職員が協力しないのはいかがでしょうか。
- ・ 安全神話が崩れてきた日本で地方も考えていかなければ存続が危ぶまれる現状にある。自分の仕事に関わる介護保険も大きく変化しており、今までのような受身の考え方では未来はなく、自ら決定し、責任を持ち、町をつくり上げていく時代がきたことを実感した。
- ・ 今の時代に私たちが置かれている立場ややるべきことを広い視野で捉えながら、日々の仕事に取り組む必要性を認識しました。縦横に人のつながりを大切にし、柔軟にももの見方考え方を変えていけるよう努力していきたい。
- ・ 職員として、もっと無駄を省き、時間を意識し、行動することが大切であり、メリハリをつけた仕事をして住民から信頼される職員を各々が目指し、刺激し合い、高めあうことだ。
- ・ 地方分権の中で「自助、互助」を住民に求め、職員も意識を変えていかなければならないが、どうするべきかが分からなかった。しかし、町長の話の中で、「行動目標を自主自立に据えた仕事づくり」が「住民主権の自治」を具現化するために職員がすべきことであると思う。
- ・ 大口町が合併を離れ、自立していくことになり、職員として時代も町政も大きく変化していく中で、どのようにしていくのか考えていかななくてはいけない。